

グラスルーツからの日米関係強化

日本庭園活性化・文化交流への活用

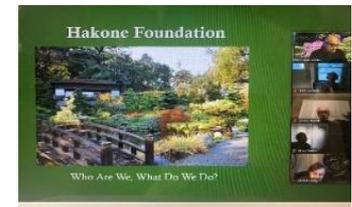
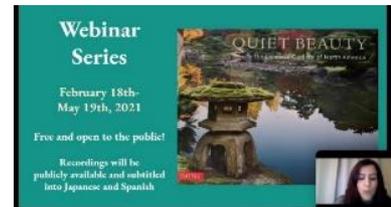
日本庭園における日本文化紹介事業

グレンデール市ブランド公園内「日本友好庭園」の茶室を日本文化発信拠点としてリニューアルのうえ活用し、2018年4月に開催された第1回グレンデール桜祭りでは裏千家師範による茶会を開催。市民2,000人を集め、多くの家族連れが日本文化を楽しんだ。2019年3月の第2回桜祭りには、阿波踊りグループ「寶船」を日本から派遣。

日本庭園ウェビナー・シリーズ 開催

米国及び米州各地に所在する日本庭園に関する連続オンライン・セミナー。米国をはじめとする海外の日本庭園への認知度と関心を高め、庭園を活性化させるとともに、文化交流の拠点としての可能性について考察を深めることを目指す。コロナ禍中、在米日本庭園関係者グループ訪日研修実施の目途が立たないことから、オンライン事業を代替企画。米国等各地の27の日本庭園を取り上げ、毎回違う講師が登壇し、在外日本庭園の100年以上にわたる歴史、哲学、文化から庭園管理運営ノウハウに至るまで様々な切り口でわかりやすく解説。質疑応答セッションも活発に行われた。

- ✓ 国際交流基金、北米日本庭園協会(NAJGA) 共催
- ✓ 2021年2月19日～5月20日 毎週金曜日開催 全14回
各回 90～120分
- ✓ 英語（日本語・西語字幕付き）
- ✓ 視聴者数のべ2,298人 登壇者のべ38人 Q&A発言者のべ50人以上
- ✓ アンケート結果：「ウェビナー・シリーズに満足した」97%以上 「日本への関心が高まった」91%以上



日本の外にある日本庭園は、多くの人々や文化を結びつけることができる大切なツールだと感じた。

これらの庭園は、日本文化の過去と現在にリンクしている点で極めて重要。教育ツールとしても大切。北米における日本人の歴史を認識することにも繋がる。

北米の日本庭園にはそれぞれ独自のストーリーがあり、各庭園の特徴や精神の形成には、土地柄や地形、庭園を支える造園関係者達にも深く影響されるものだと感じた。

日本庭園学会全国大会（2021.6）にて本ウェビナーに係る報告・評価

・・・まさに、北米の日本庭園の歴史と現況、課題、そして将来展望が実感できた。これまで、ごく限られた専門家の間でのみ認識されていた、北米の日本庭園の歴史と現況、その全体像の大まかな把握を、参加者が短期間に得ることができたメリットは大きい。・・・

（鈴木誠 東京農大グリーンアカデミー校長・東京農大名誉教授） 2